



### 「To REMEMBER Something Forever」

10月にもなると、季節は秋になり半袖では寒く感じる、ようで寒くない。この感覚を毎年体感しているのに風邪をひくから、不思議なものです。

銀座では、奥まで続くネオン街が、毎日ギラギラしています。「こんなに電気使って！」と思う節約家もいるかもしれませんが、しかし、電気もここで使わなきゃ、いつ使うんだ？という場面があります。外国の観光客が、同じアングルで、この通りの写真を撮るのは、そのためでしょう。街がキラキラと輝いているわけです。

人生にも輝く瞬間があるように思います。太宰治の番組を観ていたら、人間的にはどうしようもない部分があるけれども、人を惹きつける魅力があるといいます。もし、太宰治が小説家ではなく、何も現代まで残していなかったら、誰にも相手にされない人になっていたかもしれません。その意味では、太宰をとりまく環境や人々が、太宰治という人物を認めたということになります。

僕も昔は、何かしらの才能に特化した人に興味がありましたが、銀座の永遠と続くネオンの灯りを眺めていたら、才能とか芸術とか欺瞞的に思えてきたのです。

もちろん、作品として素晴らしいものは、たくさんあります。小説もなるほどと思うし、ダリの絵もすごいと思うけれども、常に新たな演奏を模索して、挑戦し続ける Wes Montgomery がソロの入りをミスしたのを聴くと、「ああ、なんて人間的なんだ」と安心して、ますます魅力に思います。

当時、太宰治と共に生きた人々は、大変だったでしょう。2018年に、こんな有名人になっているとも思わなかったでしょう。

銀座のネオン街のように、街も人も、光と影で作られているのかもしれませんが。。。